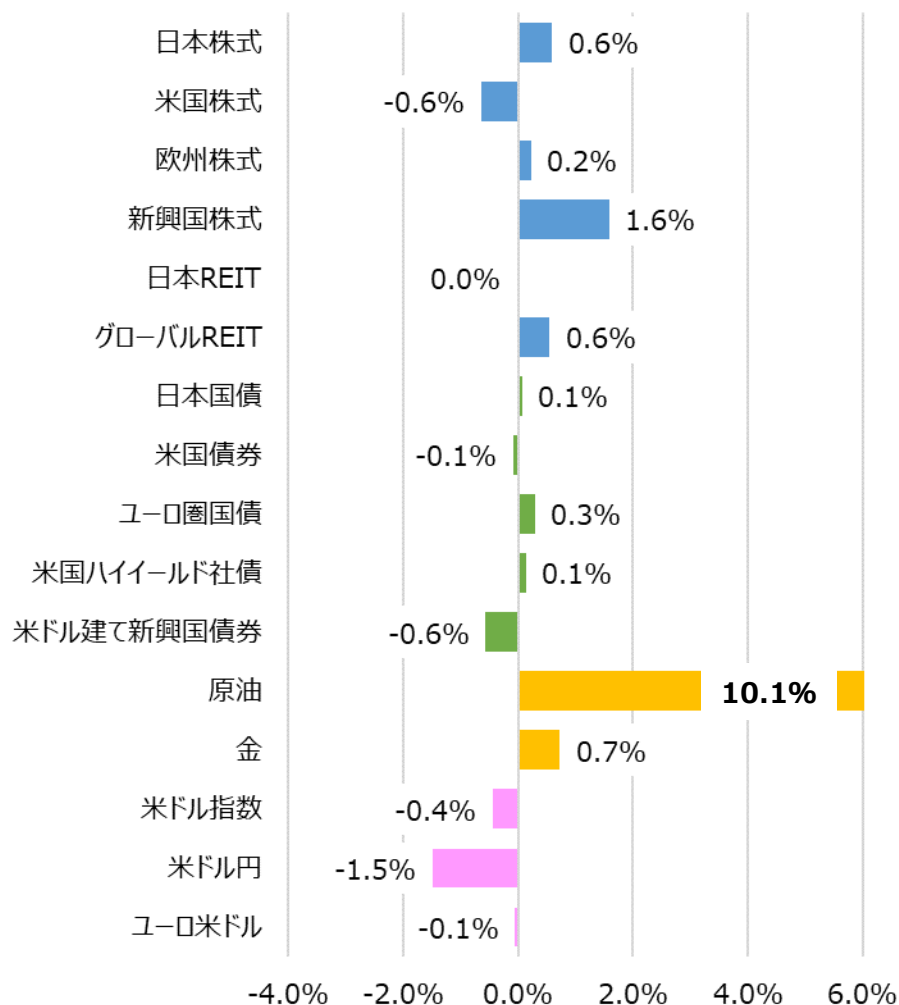




Weekly Market Review

期間：2020年9月14日～9月18日



【日本株式】

英アストラゼネカが中断していた新型コロナウイルスのワクチン治験を英国で再開したと発表したことや、米中欧の経済指標の改善が相場を支えましたが、円高の進展が上値を抑えました。日銀の政策決定内容は想定内と受け止められ、菅新政権への政策期待は高まらず、相場を押し上げる材料にはなりませんでした。

【米国株式】

英半導体設計大手アームを買収すると発表したエヌビディアや、中バイトダンスとの提携を発表したオラクルなど、週前半は主要ハイテク株に買戻しの動きが広がりましたが、**FOMC後のパウエルFRB議長の見会で量的緩和拡充への言及がなかったことが失望**を誘い、再びハイテク株への売り圧力が強まりました。ニューヨーク連銀製造業景況感指数やミシガン大学消費者景況感指数は予想を超える改善を示しましたが、追加経済対策を巡る与野党協議に進展が見られなかったことなどから投資家のリスクテイク意欲は高まりませんでした。

【欧州株式】

欧州経済研究センター（ZEW）発表のドイツやユーロ圏の景況感予測指数が予想を大幅に上回る改善を示し、OECDの2020年成長率見通しではユーロ圏と英国がともに上方修正されました。ただ、パウエルFRB議長会見への失望や英EU間の離脱条件交渉が停滞していること、域内のウイルス新規感染者数の増加に歯止めがかかっていないことなどが重荷でした。

【新興国株式】

小売売上高や鉱工業生産など中国の主要経済指標が総じて強めの結果だったことや、OECDが世界の2020年経済成長率見通しを上方修正し、**特に中国をプラス成長へと大幅に引き上げたこと**などからアジア新興国中心に堅調でした。対米ドルで新興国通貨が上昇したことも米ドルベースの新興国株式指数を押し上げました。

【日本REIT】

各国中銀の緩和政策長期化観測から堅調に推移していましたが、**18日に急落**しました。英インデックス算出会社が18日引け後にJ-REITをグローバル株式指数に組み入れると発表していたことで先回りして買われた銘柄に利益確定売りが高まりました。

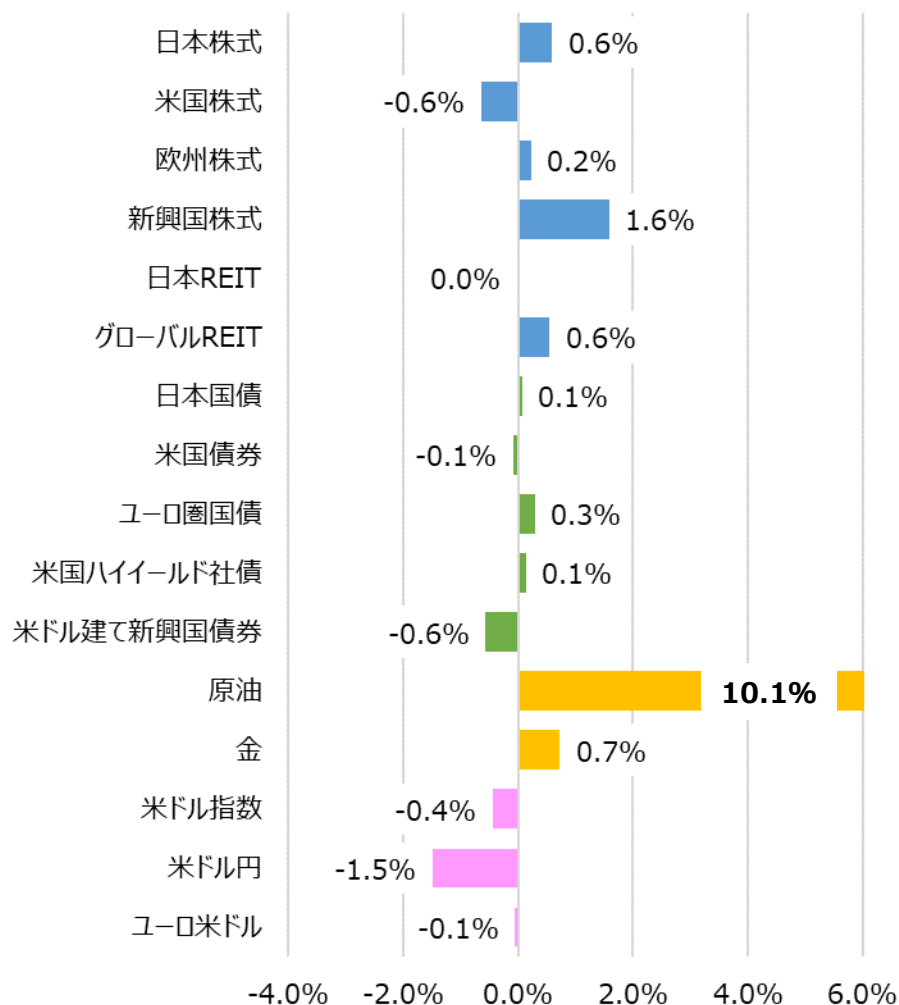
【グローバルREIT】

ウイルスワクチンの開発進展や、米国で大型M&A（合併・買収）のニュースが相次いだことなどから週前半に急伸びしましたが、**パウエルFRB議長会見への失望などから週後半に失速**しました。米住宅着工と建設許可件数が前月比で減少に転じたことなども重荷でした。



Weekly Market Review

期間：2020年9月14日～9月18日



【日本国債】

日銀政策決定会合では政策維持が決定され、景気判断を若干上向きに修正しましたが、株式相場の先行きに不透明感が増し、円高基調もあってリスクヘッジ目的の買いが優勢となり、底堅い動きでした。

【米国債券】

FOMC声明文ではフォワード・ガイダンスが強化され、実質的なゼロ金利政策の解除には雇用情勢の回復やインフレ率の2%への到達などの条件が必要と明記され、経済見通しでは2020年10-12月期成長率が上方修正され、失業率が引き下げられました。物価上昇を促すとの見方に繋がり、長期債中心に軟調な動きとなりました。WHOが1日当たりの新規感染者数が過去最多になったと発表したことなどが下値を支えました。

【ユーロ圏国債】

英中央銀行（BOE）の政策決定会合では政策維持が決定されましたが、マイナス金利導入の是非について議論されたと明らかになりました。英国債利回りが低下し、ユーロ圏国債にも買いが波及しました。域内のウイルス新規感染者数の増加も逃避需要を強めました。

【米国ハイールド社債】

FRBがゼロ金利政策の長期化を示唆したこと、残存年限が相対的に短いハイールド社債市場は底堅い動きでした。資本財セクターや消費関連銘柄が買われました。

【新興国債券（米ドル建て）】

米国債利回りが長期中心に上昇したことから残存年限が相対的に長い新興国債券市場は軟調な展開でした。米格付け会社ムーディーズが発行体格付けを引き下げたトルコの下落幅が大きくなりました。見通しはネガティブに据え置かれました。

【コモディティ（金・原油）】

金は、FOMC後に発表された経済見通しで、多数のメンバーが2023年末まで政策金利が維持されると予測し、また、BOEも緩和強化の姿勢を見せたことから資金流入が続くとの観測に繋がりました。原油は大幅に反発しました。ハリケーン「サリー」の影響から石油施設が操業を停止したこと、米原油在庫が予想外の大幅減となったこと、OPECプラスが17日の会合で構成国に協調減産の遵守を要求したことなどから、需給改善期待が高まりました。

【米ドル指数】

FRBがゼロ金利政策の長期化を示唆したこと、米ドルが売られ、金利差拡大観測が後退した円が買われました。18日にはマイナス金利導入観測が浮上した英ポンドが売られました。



当資料のお取り扱いに関する留意事項、使用している指数等について

当資料は情報提供を目的としてアストマックス投信投資顧問株式会社が作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。当資料は当社が信頼できると判断した情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料中に記載した内容、数値、図表等は、当資料作成時点のものであり、今後、予告なく変更することがあります。当資料で使用している各指数に関する著作権、知的所有権その他一切の権利はそれぞれの指数の開発元もしくは公表元に帰属します。なお、当資料のいかなる内容も将来の投資成果を示唆ないし保証するものではありません。

日本株式：TOPIX（東証株価指数）

米国株式：S&P500種株価指数（米ドルベース）

欧州株式：STOXX Europe 600種株価指数（ユーロベース）

新興国株式：MSCI新興国株式指数（米ドルベース）

日本REIT：東証REIT指数

グローバルREIT：FTSE EPRA/NAREITグローバルREIT指数（米ドルベース）

※ 文中に世界株式とある場合、MSCI All Country World Index（新興国を含む全世界株式指数、米ドルベース）をさします。また、新興国通貨とはMSCI新興国通貨指数（対米ドル）をさします。

日本国債：FTSE日本国債指数

米国債券：ブルームバーグ・バークレイズU.S.アグリゲイト・フロートアジャステッド指数（米ドルベース）

ユーロ圏国債：ブルームバーグ・バークレイズ・グローバルアグリゲイト・ユーロガバメント・フロートアジャステッド指数（ユーロベース）

米国ハイイールド社債：ICE バンク・オブ・アメリカ・メリルリンチ米国ハイイールド・コンストレインド指数（米ドルベース）

米ドル建て新興国債券：J.P.Morgan 米ドル建て新興国債券コア指数（米ドルベース）

原油：CME上場のWTI原油先物取引の期近限月（1番限）価格（米ドルベース）

金：S&P GSCI CME金エクセスリターン指数（米ドルベース）

米ドル指数：ICE USが算出・公表する米ドルインデックス

出所：ブルームバーグ